

2016年 12月 4日

調査レポート

実践女子大学 人間社会学部
実践「ペルソナ」研究会

実践『ペルソナ』通信 (No.32)

女子大生の写真撮影およびSNSへの投稿に関する調査結果 ～女子大生の約9割がInstagramを利用～

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に「女子大生の写真撮影およびSNSへの投稿」に関するアンケート調査を実施しました。有効回答者数は45サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当：竹内光悦）」、「経営学（担当：篠崎香織）」、「マーケティング（担当：斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、自分たちの消費活動、ライフスタイルをはじめ「実践女子大生が自分たち自身」を科学する研究会です。

総括

今回の調査を通して女子大生のほとんどが携帯電話のカメラで写真を撮っていることがわかった。写真を撮らない理由としては写真を「撮ることが面倒くさい」と回答している人が2人いたが、かなり少数派の意見であった。写真を撮る理由は主に、「思い出に残したい」が80%と最も多く、シチュエーション別では「キレイな景色を見たとき」に写真を撮る人の頻度が最も多かった。

女子大生のInstagramを利用している人の割合は87%とかなり高かったが、1ヶ月の平均投稿枚数は3.1枚と少なかった。このことから、Instagramは写真を投稿するよりも閲覧を目的として利用しているのではないかと考えられる。撮った写真をどのように加工するかは「写真全体の色を変える加工」が69%と最も多く、次いで「複数の写真をカラーシユする加工」が14%という結果だった。

調査結果のポイント

(1) 女子大生の9割が携帯電話のカメラで写真を撮る、主な理由は思い出に残したい

携帯電話のカメラで写真を撮るか尋ねたところ、96%の人が「撮る」と回答した。残りの4%の人は「撮らない」と回答し、ほとんどの人が日常生活で写真を撮っていた。写真を撮る理由として「思い出に残したいから」が84%と圧倒的に多かった。次いで「なんとなく」が7%で、「みんなが撮っているから」が2%であった。

(2) 最も写真を撮る頻度が高いシチュエーションは「キレイな景色を見たとき」

シチュエーション別に写真を撮る頻度を尋ねたところ、撮る人の頻度が最も高かった場面は「キレイな景色をみたとき」の86%であった。僅差で「友人と一緒にいるとき」が81%と続いた。友達と一緒に居るときや、何か珍しいものを見たときに写真を撮る人が多いようである。

(3) 女子大生のInstagramの利用率は9割、投稿するより見る人が多い

全体の87%がInstagramを利用していた。1ヶ月にどのくらい投稿しているかも尋ねたところ、「0枚」と回答した人が26%と最も多かった。次いで「2枚」が16%、「1枚」と「3枚」が13%で、中央値は「2枚」であった。Instagramの利用率は高いが写真の投稿枚数は少ないところから、Instagramは「投稿<見る」という目的で利用している人が多いことが推測される。

(4) Instagramへ投稿する写真に対する意識と理由

写真を撮るときにInstagramに投稿することを意識するかを尋ねたところ、「必ず意識する」と回答した人が10%、「ときどき意識する」が53%、「全く意識しない」が37%となった。写真を投稿する理由は「日々の出来事の記録として」が85%と最も割合が高く、「自分の日常を他人に見せたい」が3%となり、「共通の趣味を持つ友人を見つけたい」と回答した人はいなかった。

(5) 最もよく行う加工は「写真全体の色を変える加工」

Instagramの利用者に、写真を投稿する際に最もよく行う加工を尋ねたところ、64%が写真全体の色を変える加工と回答した。写真のどこか一部分を加工するというよりは、全体的な加工を行う人が多い傾向が見られた。

(6) 内向的な人ほど投稿枚数が少なく、アカウントに鍵を設定

外向的な人の8%が投稿枚数「0枚」と回答があったのに対して、内向的な人は18%の人が「0枚」と回答し、内向的な人ほど投稿枚数が少ない傾向が見られた。また、内向的な人ほどアカウントに鍵の設定していることがわかった。

(7) 1ヶ月のInstagramの投稿枚数と1ヶ月の外出回数の関係性

1ヶ月に友人と出かける回数が多い人ほどInstagramへの写真投稿枚数が多くなるという仮説を立て、投稿枚数と1ヶ月の外出回数の関係性を見た。回帰分析の結果、Instagramの投稿枚数と外出回数には関連が見られなかった。

(8) 携帯で写真を撮らない理由、Instagramを利用しない理由

写真を撮らない理由として、「写真を撮ることが面倒くさい」と回答した人が多かった。Instagramを利用しない理由は「SNS自体が苦手」という人が50%と半分を占めており、次いで「必要性を感じない」が33%、「他のSNSを利用している」が17%であった。ネット社会での疲れが今回の「SNS自体が苦手」と回答した人が多い結果に影響しているのではないかと推測される。

調査結果について

<調査概要>

調査対象	実践女子大学渋谷キャンパス在学生
調査方法	調査票調査
調査期間	2016年10月21日～2016年10月25日
有効回答数	45人
回答者の属性	【学年】3年生

<本調査担当チーム>

実践「ペルソナ」研究会

3年 池上怜佳

3年 岩元沙起

3年 土田理奈

3年 藤倉美由紀

3年 松並優依

調査結果データ

(1) 女子大生の9割が携帯電話のカメラで写真を撮る、主な理由は思い出を残したい

普段、携帯電話のカメラで写真を撮るか尋ねたところ、96%の人が「はい」と回答し、ほとんどの人が日常生活で携帯電話のカメラを利用していた(図1)。

写真を撮る理由として「思い出に残したいから」が84%と圧倒的に割合が高く、次いで「なんとなく」が7%、「みんな撮っているから」が2%であった(図2)。その他としては「授業スライドや、その日乗る電車の予定を撮る」というような記録の手段として写真を撮るという理由もあげられていた。

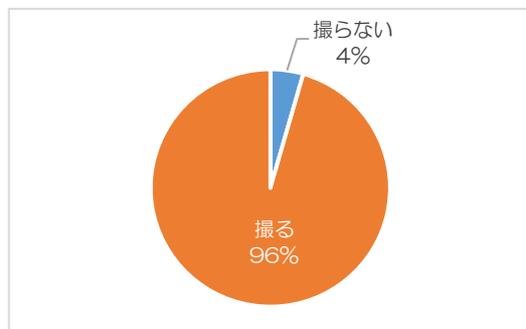


図1. 携帯電話で写真を撮るか (N=45)

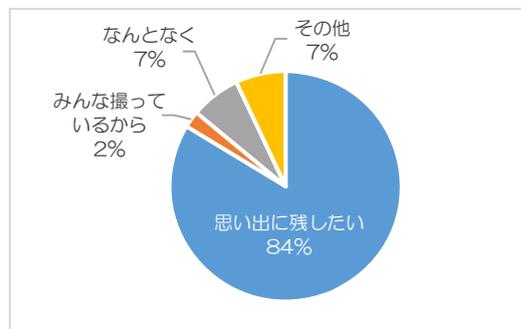


図2. 携帯電話で写真を撮る理由 (N=43)

(2) 最も写真を撮る頻度が高いシチュエーションは「キレイな景色を見たとき」

シチュエーション別で写真を撮る頻度を聞いたところ、「友達と一緒にいるとき」、「オシャレな食べ物を食べたとき」、「きれいな景色を見たとき」に写真を撮る頻度が高かった。一方、「新しい洋服や雑貨を購入したとき」、「髪の毛を切ったとき」のシチュエーションでは“写真を撮らない”と回答する人が8割を占めていた(図3)。

友達というときや何か珍しいものを見たときに写真を撮る人が多く、自分の変化や商品購入の際には写真を撮らない人が多いことが分かった。誰かと一緒にいるシチュエーションなのか、自分一人のシチュエーションなのかということは写真を撮る頻度に影響を与えていると考えられる。

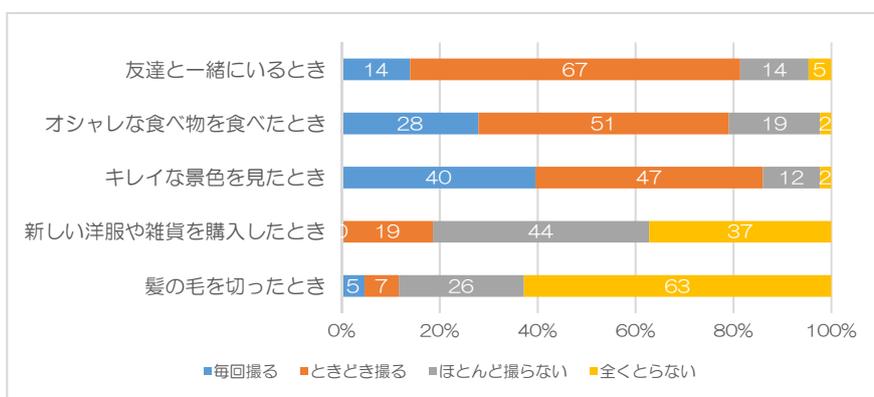


図3. シチュエーション別 携帯電話のカメラで写真を撮る頻度 (N=43)

(3) 女子大生の Instagram の利用率は9割、投稿するより見る人が多い

Instagram の利用について尋ねたところ、全体の87%が「利用している」と回答した(図4)。Instagram の利用者に「1カ月に投稿するおおよその写真の枚数」を尋ねたところ、「0枚」と回答した人が26%と最も多く、次に「2枚」が16%、「1枚」「3枚」が13%という結果であった(図5)。

Instagram の利用率は高いが写真の投稿数は少ないところから、Instagram は「投稿<見る」という目的で使われることが多いことが推測される。

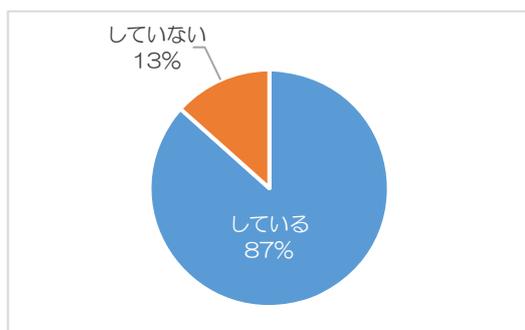


図4. Instagram の利用状況 (N=38)

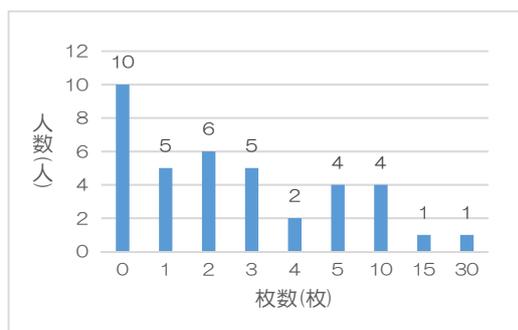


図5. 一ヶ月あたりの投稿枚数 (N=38)

(4) Instagramへ投稿する写真に対する意識と理由

写真を撮るときにInstagramへ投稿することを意識するか尋ねたところ、約7割の人が投稿することを意識して写真を撮ることが分かった(図6)。

写真を投稿する理由としては、約8割の人が「日々の出来事の記録として」と回答をしていた(図7)。Instagramを日記のように利用している人が多いことが推測される。

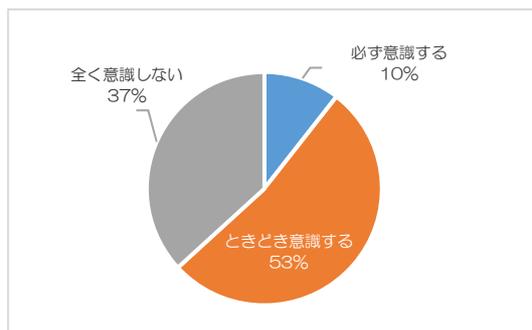


図6. 写真を撮るとき Instagram に投稿することを意識するか (N=45)

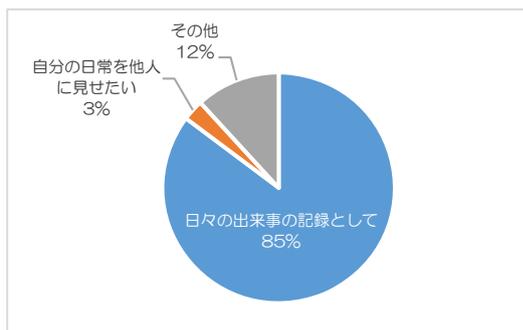


図7. 写真を投稿する理由 (N=34)

(5) 最もよく行う加工は「写真全体の色を変える加工」

Instagramの利用者に、写真を投稿する際に最もよく行う加工を尋ねたところ、利用者の64%が写真全体の色を変える加工と回答した(図8)。次いで複数の写真をコラージュする加工が13%、加工はしないが8%という結果となった。写真のどこか一部分を加工するというよりは、全体的な加工を行う人が多いようだ。

図3より女子大生は様々なシチュエーションで写真を撮っており、たくさんの写真を保持していることが考えられたため、複数の写真をコラージュする加工と回答する人が多いことを予測していたが、実際には13%と意外にも低い結果となった。

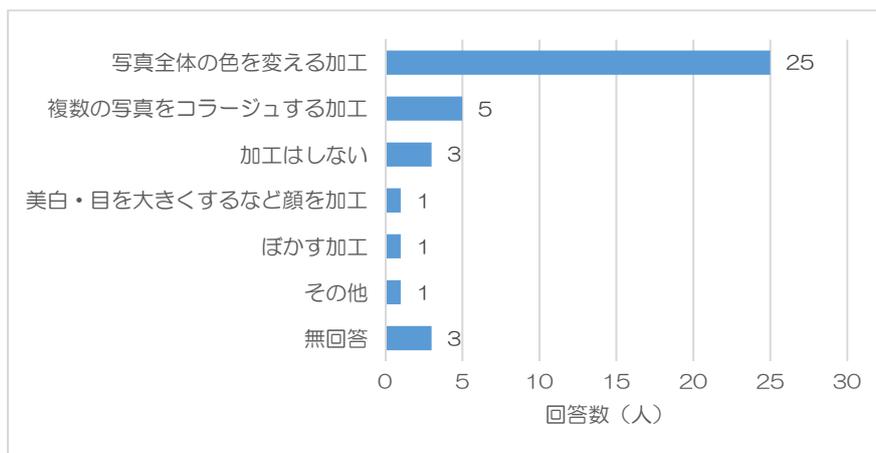


図8. Instagramに写真を投稿するときによくする加工 (N=39)

(6) 内向的な人ほど投稿枚数が少なく、アカウントに鍵を設定

外向的な性格か内向的な性格かによる 1 ヶ月あたりの写真の投稿枚数の違いを見てみた (図 9)。外向的な人は投稿枚数を「0枚」と回答した人は8%であったことに対して、内向的な人は18%の人が「0枚」と回答し、内向的な人ほど投稿枚数が少ない傾向が見られた。ところが、少数ながらも内向的な人において1ヶ月に10枚以上投稿している人もいるため、内向的な人は投稿枚数が少ないとは一概には言えないようである。

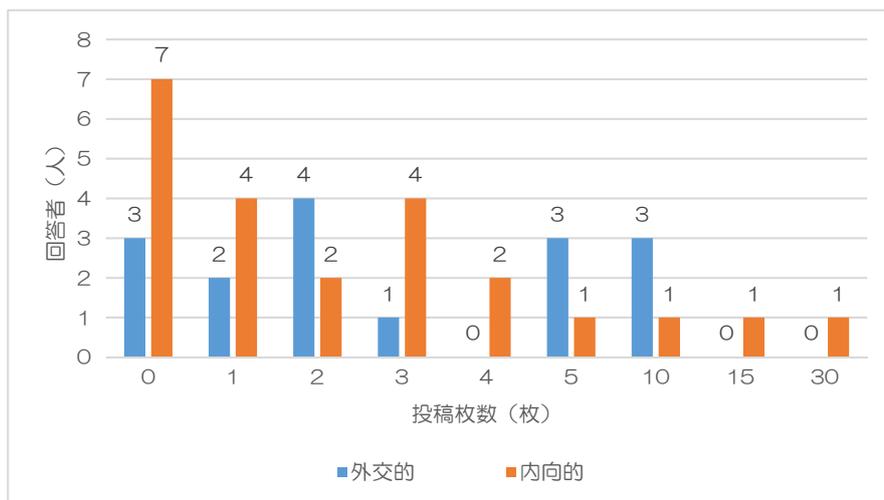


図 9. 性格と Instagram 投稿枚数 (N=39)

また、性格におけるアカウントの公開設定についても尋ねた。内向的な人ほど自身のアカウントに鍵をかけている人が多いことがわかる (図 10)。図 9 より、内向的でも投稿枚数が多い人が見られたが、その要因として、鍵をかけることで一部の人 (自分の親しい友人) にしか公開されないということが影響しているのではないかと推測される。

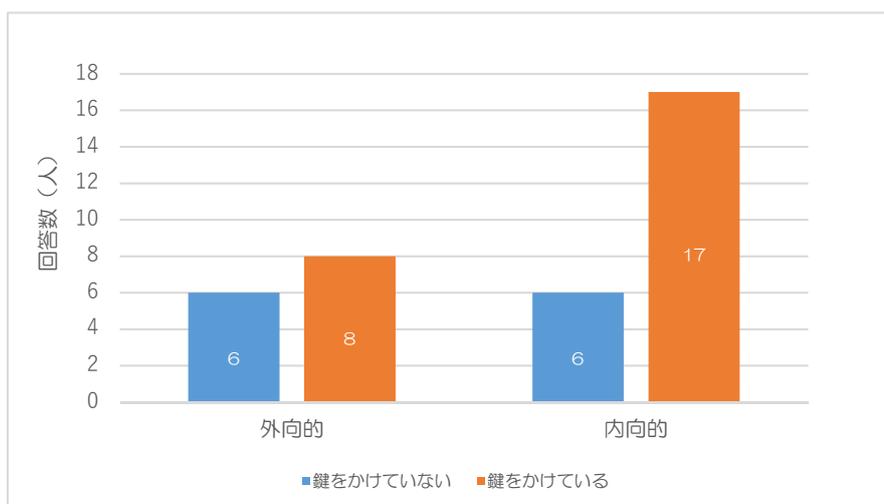


図 10. 性格とアカウントの公開設定 (N=37)

(7) 1ヶ月のInstagramの投稿枚数と1ヶ月の外出回数の関係性

1ヶ月に友人と出かける回数が多い人ほどInstagramへの写真投稿枚数が多くなるという仮説を立て、Instagramを利用している人の中から投稿枚数と1ヶ月における友人との外出回数の関係性を見た(図11)。

実践女子大学生のInstagramの使用率は87%と高く、1ヶ月の平均投稿枚数3.1枚で、1ヶ月の平均外出回数4.5回であった。回帰分析の結果、決定係数は0.118であり、ほとんど関連性が見られず仮説は立証できなかった。

図3より、女子大生は誰かと一緒にいるシチュエーションで写真を撮る頻度が高いため、このことから友人とお出かけをする回数が多いほど、撮った写真を記録としてInstagramに投稿する回数も増えると推測していたが、投稿枚数と友人と出かける回数には関連が見られなかった。

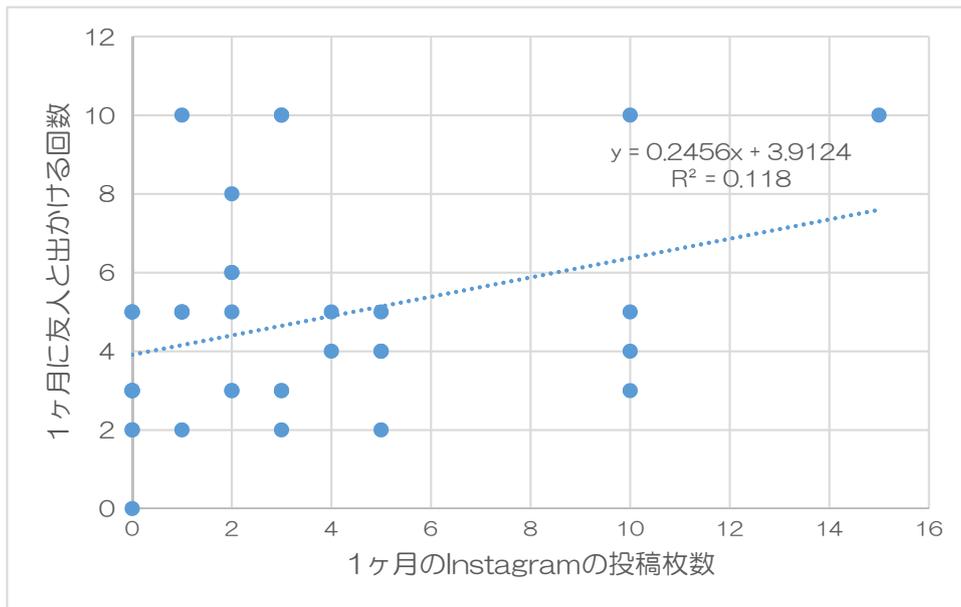


図 11. Instagram の投稿枚数と 1 ヶ月の外出回数 (N=37)

(8) 携帯で写真を撮らない理由、Instagram を利用しない理由

女子大生の 9 割以上、ほとんどの人が普段から携帯電話のカメラを利用して写真を撮っているようだが、そのような中でも「写真を撮らない」と回答する人も少数いた。写真を撮らない理由として最も多かった理由は「写真を撮ることが面倒くさい」であった。

また、約 9 割の人が Instagram を利用している一方で、利用していない人もいたため、その理由を見てみた。

Instagram を利用しない理由として「SNS 自体が苦手」という理由が 50%と最も高い割合を占めていた(図 12)。次いで「必要性を感じない」という回答者が 33%、「他の SNS を利用している」が 17%であった。ネット社会である現代、常にインターネットを通じて誰かと繋がることができるようになった。楽しいことがある反面、プライベートとの境目が薄れてしまうことで疲れを感じている人も多くいるのではないかと推測する。

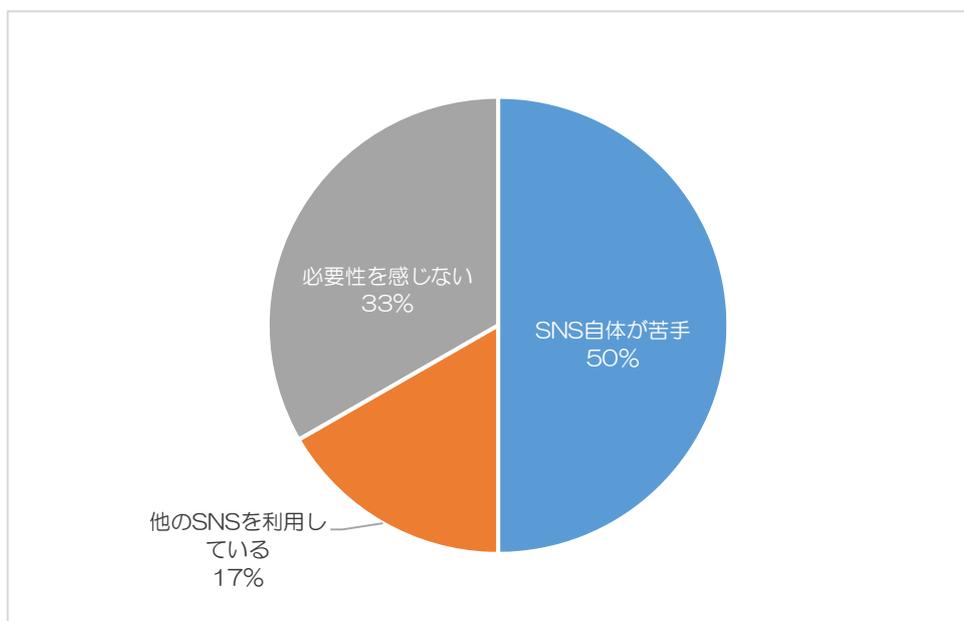


図 12. Instagram を利用しない理由 (n=6)